

Ⅲ 耕地の利用状況

1 夏期における田本地の利用状況

(1) 平成21年夏期（おおよそ水稲の栽培期間）における田本地の利用状況をみると、水稲作付田は163万7,000ha（青刈り面積を含む。）で、前年並みとなった。水稲以外の作物のみの作付田は43万9,500haで、前年並みとなった。また、夏期全期不作付地は28万7,200haで、前年に比べて8,300ha（3%）減少した。

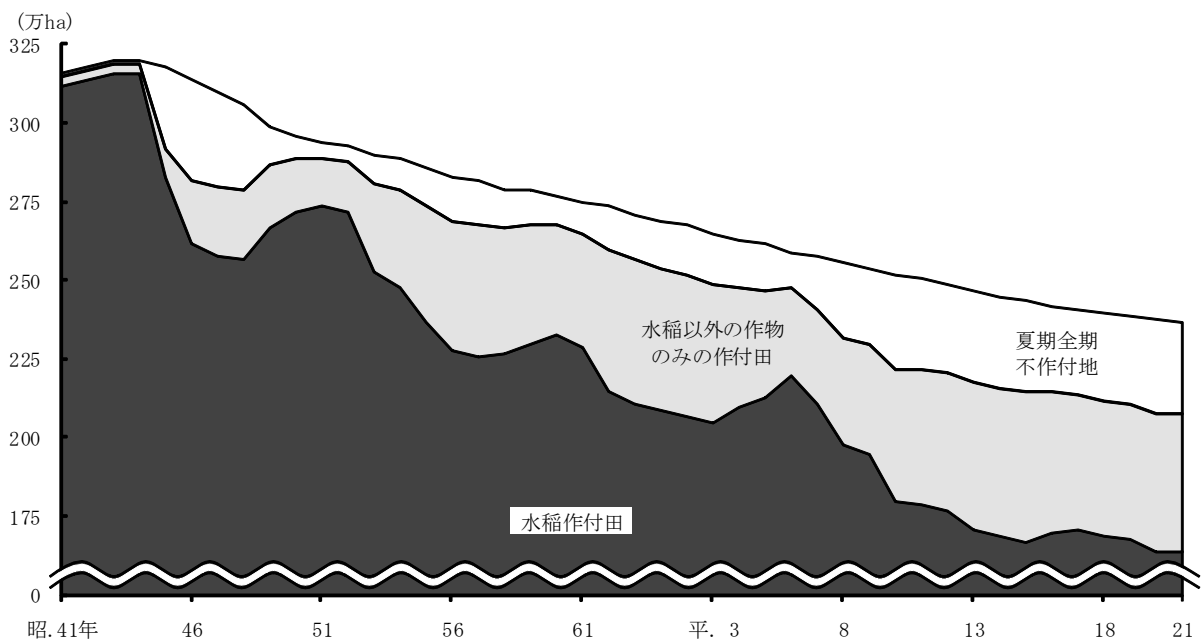
この結果、田本地に占める水稲作付田の割合は前年に比べて0.2ポイント上昇して69.2%、水稲以外の作物のみの作付田の割合は前年並みで18.6%、夏期全期不作付地の割合は前年に比べて0.4ポイント低下して12.1%となった。（表13）

表13 平成21年夏期における田本地の利用状況

区 分	面 積	前年との比較		構成比
		対 差	対 比	
	ha	ha	%	%
田 本 地	2 364 000	△ 9 000	100	100.0
水 稲 作 付 田	1 637 000	0	100	69.2
水稲以外の作物のみの作付田	439 500	△ 1 500	100	18.6
夏 期 全 期 不 作 付 地	287 200	△ 8 300	97	12.1

(2) 夏期における田本地の利用状況の動向をみると、昭和45年に米の生産調整が実施されて以降、米の生産調整面積の変動による増減はあるものの、水稲作付田は減少傾向で推移し、水稲以外の作物のみの作付田及び夏期全期不作付地については増加傾向で推移している。（図19）

図19 夏期における田本地の利用状況の推移



2 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率

(1) 平成21年における田の農作物作付(栽培)延べ面積は229万4,000haで、前年に比べて7,000ha減少した。(表14)

これは、麦類の作付面積が増加したものの、水稻、豆類、野菜等の作付面積が減少したためである。

田の耕地利用率は91.5%で、前年と同じになった。(表14)

(2) 畑の農作物作付(栽培)延べ面積は195万haで、前年に比べて1万4,000ha(1%)減少した。(表14)

これは、飼肥料作物、果樹、工芸農作物等の作付(栽培)面積が減少したためである。

畑の耕地利用率は92.7%で、前年に比べて0.3ポイント低下した。(表14)

(3) この結果、田畑計の耕地利用率は92.1%で、前年に比べて0.1ポイント低下した。(表14)

表14 平成21年農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率

単位 { 作付(栽培)延べ面積、対差 : ha
対比、耕地利用率 : %

区 分	田 畑 計				田				畑			
	作付(栽培) 延べ面積	前年との比較		耕 地 利用率	作付(栽培) 延べ面積	前年との比較		作付(栽培) 延べ面積	前年との比較			
		対差	対比			対差	対比		対差	対比		
作付(栽培)延べ面積	4 244 000	△ 21 000	100	92.1	2 294 000	△ 7 000	100	1 950 000	△ 14 000	99		
水陸稲(子実用)	1 624 000	△ 3 000	100	35.2	1 621 000	△ 3 000	100	3 170	△ 200	94		
麦類(子実用)	266 400	700	100	5.8	167 200	1 200	101	99 200	△ 400	100		
かんしょ	40 500	△ 200	100	0.9	3 280	△ 40	99	37 200	△ 200	99		
雑穀(乾燥子実用)	47 500	△ 1 600	97	1.0	32 600	△ 800	98	14 900	△ 900	94		
豆類(乾燥子実用)	197 500	△ 2 200	99	4.3	132 400	△ 1 800	99	65 100	△ 400	99		
野菜	551 800	△ 2 600	100	12.0	146 000	△ 1 700	99	405 700	△ 1 100	100		
果樹	250 700	△ 4 000	98	5.4	-	-	-	250 700	△ 4 000	98		
工芸農作物	169 500	△ 2 800	98	3.7	8 690	△ 320	96	160 800	△ 2 500	98		
飼肥料作物	1 008 000	△ 4 000	100	21.9	155 200	△ 300	100	852 400	△ 4 200	100		
その他作物	87 900	△ 500	99	1.9	27 500	△ 100	100	60 400	△ 400	99		
耕地面積	4 609 000	△ 19 000	100	-	2 506 000	△ 10 000	100	2 103 000	△ 9 000	100		
耕地利用率	92.1%	△0.1ポイント	-	-	91.5%	0.0ポイント	-	92.7%	△0.3ポイント	-		

注：耕地利用率は、耕地面積に対する作付(栽培)延べ面積の割合である。

$$\text{耕地利用率}(\%) = \frac{\text{作付(栽培)延べ面積}}{\text{耕地面積(7月15日現在)}} \times 100$$

- (4) 作付(栽培)延べ面積の動向をみると、昭和40年代は麦類を中心とした水田裏作の減少や、45年から始まった米の生産調整による不作付地の急増により田を中心に大幅に減少を続けてきたものの、49年以降は麦類の生産振興による作付回復等からほぼ横ばいで推移した。60年以降は生産者の労働力事情等により麦類及び豆類等も減少し、平成10年からは米の生産調整の一環で麦類、豆類等の作付けは増加したものの、総体的には減少傾向で推移している。(図20)
- (5) 耕地利用率の動向をみると、昭和40年には123.8%であったが、その後も低下傾向で推移し、平成6年には100%を下回った。平成11年に昭和59年以来15年ぶりに上昇した以降は、ほぼ横ばい傾向で推移していたが、近年は減少傾向で推移している。(図20)

図20 農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率の推移

